参考資料5

北九州ESDアクションプラン

2015～2019

自分を変え、まちを変え、未来を変えていく、北九州ESD

平成28年3月

RCE北九州

（北九州ESD協議会）

～ 目 次 ～

はじめに ・・・2

１　北九州ESDが目指すもの ・・・4

２　北九州ESDの将来ビジョン ・・・4

３　北九州方式ESDとは ・・・5

４　基本的事項 ・・・5

⑴主体　⑵対象地域　⑶対象分野　⑷計画期間

５　これまでの成果と課題

⑴成果 ・・・6

⑵課題 ・・・9

６　重点的に取組む事項 ・・・11

７　取組みの推進に向けて

⑴推進体制と事務局体制 ・・・15

⑵事務局・協議会の役割 ・・・15

⑶指標及び５年後の達成目標 ・・・17

８　今後の展望 ・・・19

はじめに

１　持続可能な社会づくりとＥＳＤの必要性

恵み豊かな地球の恩恵をいっぱいに受けながら、今を生きる私たちは、この美しい地球環境を将来世代にわたって、守り、確実に引き継ぐ大きな使命を担っています。一方で、人類の開発活動に伴う気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇化等の環境問題をはじめ、持続可能性の根本を揺るがす世界各地での災害や紛争など、多くの地球規模の問題を抱えています。また、東日本大震災などを契機に「真の豊かさ」について、私たち一人ひとりに課題が投げかけられています。

このような中、私たちが今も将来も幸せに暮らせる「持続可能な社会」を築いていくためには、一人ひとりが、地球規模の問題を自らの問題として捉え、課題解決に向けて自分ができることを考え、多くの主体がつながり取組む必要があります。そのための取組みが「持続可能な開発のための教育（ESD=Education for Sustainable Development）」です。

国際社会でもESDの重要性は認識されており、2002年に日本政府がＮＧＯと協働で提案した「ESDの10年（2005～2014）」では、世界規模での取組みが推進されました。最終年である2014年に開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」では、これまでの活動を振返るとともに、2015年以降の世界的な枠組みとして「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」が正式採択され、ESDのさらなる取組強化が共有されました。さらに、2015年に採択された2030年までの「持続可能な開発目標（SDGｓ）」では目標４「すべての人々への包摂的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の中にESDが明記されるなど、国際社会におけるESDの重要性はより一層高まっています。

北九州市においても、持続可能性を根本とする「環境未来都市」の実現を目指して、様々な取組みが進められているところですが、地球規模の課題はもとより、環境・社会・経済が複雑かつ密接に絡み合う様々な問題に直面しています。また、人口減少・少子高齢化、コミュニティの希薄化などは喫緊の課題です。このような状況の中、ESDの北九州地域への広域的な普及を図り、地域の資源や魅力を活かしながら、課題解決に向けて様々な人や団体・組織が自発的に参画・協働して、自分たちのまちづくりを進めていくことが重要です。

２　新アクションプランの策定にあたって

私たちは、市民を中心とした産学官民の参画のもと、2006年に北九州ESD協議会を設立しました。そして同年、国連大学からＲＣＥ（ESDの地域の推進拠点：Regional Centre of Expertise on ESD）に認定され、その行動計画として、「北九州ESDアクションプラン（2006～2014）」を策定しました。以降、協議会が核となって、多様な活動団体が連携しながら、ESDの普及啓発や学びの場づくり、ユネスコスクールの登録推進、普及の鍵となるESDコーディネーターの育成など、市民団体、大学、企業、行政などが協働で取組みを進めています。

また、この取組みが高等教育にも広がり、2013年には北九州市内の10大学が連携し、

小倉都心部にESDをテーマとした実践型人財育成の拠点「北九州まなびとESDステーション」が開設されました。このように北九州では、「ESDの10年」の取組みにより、ESD活動の基盤が整えられたところです。

ESDは、一人ひとりの毎日の生活の中、地域の中に寄り添うものです。

「自分自身と社会を変えていく学び」であるESDを通じて、協働で地域の魅力を活かしながら課題解決に取り組み、地域への愛着や誇り（シビックプライド）を生み出します。その想いが地方創生を担う人財を育み、皆で素晴らしい北九州を創ります。

そのためにも、あらゆる分野・世代へのESDの普及を目指し、GAP、国内実施計画をふまえ、前アクションプランにもとづいて活動を進めてきた成果や課題を見つめ直し、この度「北九州ESDアクションプラン2015～2019」を策定しました。

1　北九州 ESD が目指すもの

ESD とは

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。（文部科学省ホームページより）

すなわち、

「より良い未来のために自分自身と社会を変えていく『学び』」です。

ESDを通して、地球規模の視点を持ちながら、北九州地域のより良い現在と未来に向けて、「気付く」「学ぶ」「考える」「行動する」ことができる人財を多く育みます。そしてこれらの人々が「つながる」「広げる」「共有する」ことにより、ESDによるエンパワーメント（相乗効果で高めあう）の文化を最大限に引き出し、浸透させます。

そのために、まずは皆にとってよりわかりやすい「北九州方式ESD」を通じて、まちの課題解決に積極的に参画する人々を多く生み出します。それにより徐々に活動の拡大を図り、環境・社会・経済のバランスのとれた、公正で持続可能なまちの実現を目指します。

2　北九州ESDの将来ビジョン

北九州ESD 2015～2019スローガン

「自分を変え、まちを変え、未来を変えていく　北九州ESD」

本アクションプランの取組みにより、下記の「5年後の北九州地域のあるべき姿」を目指します。

⑴ 持続可能な社会やまちづくりの必要性について、多くの市民・地域・学校・企業・行政等が理解し、それぞれの役割をふまえて学び、行動している。

⑵ 北九州地域内で、多くの組織・地域・団体・個人等がつながって、持続可能なまちの実現を目指した自主的・積極的な取組みが多く行われている。

⑶ 北九州地域と国内外の多様な組織・団体等が結びつき、相互に高め合い、深め合う学び合いが継続的に行われている。

⑷ 上記の取組みをあらゆる分野・世代が行い、公正で豊かなまちを創り、持続可能な未来につながっている。

３　北九州方式ESDとは

ESDが目指す「持続可能な社会」づくりは、環境保全と経済発展の両立だけではなく、福祉、文化・伝統、教育、コミュニティの再生といった様々な社会的な課題の解決と深く関係しています。そのため、ESDの概念は、抽象的になりがちで、一般に理解が広がりにくいという課題があります。

そこで「北九州方式ESD」では、市民の学び・行動をきっかけに産学官民が一体となって公害を克服した歴史を持つ北九州の「環境」を出発点として、福祉、文化、教育、経済等のあらゆる分野にわたるESDを理解し、身近な生活や地域の中から課題解決に取組むことでESDの普及を図ります。また、従来から北九州ESDの特長である『市民主体』の取組みにより、自主的・継続的な「持続可能なESD活動」を目指します。

①　環境

「環境未来都市・北九州市」の特長である「環境」を出発点に、身近な事例からESDの理解を進めることで、普及を促進します。

②　市民主体

市民の自主的な学び・行動をきっかけに産学官民が一体となって公害を克服したESDの歴史を基盤に、「①市民一人ひとりが」「②自主的に」「③協働で」ESDに取組むことにより、真の持続可能なまちを目指します。

４　基本的事項

⑴主体

本アクションプランは、国連大学が認定するRCEの推進母体である北九州ESD協議会を中心に、産学官民からなる協議会加盟団体をはじめ、様々な組織・団体・市民（北九州地域に住む人）が主体的に取組むとともに、それぞれの立場に応じた役割をふまえ、協働で実施します。

⑵対象地域

本アクションプランは、北九州市を中心に、周辺圏域なども含め、広域における関連組織や団体などとも連携しながら、ESDの推進を図ります。

⑶対象分野

本アクションプランは、環境保全をはじめ、持続可能なまち・社会づくりにつながる福祉、国際理解、人権などあらゆる分野の活動を対象とします。

⑷計画期間

本アクションプランは、GAPの検証期間、国の実施計画とあわせて、2015～2019年度の５年間とします。ただし、様々な社会情勢の変化や、推進体制の見直し・構築などに柔軟かつ着実に対応していくため、必要に応じて期間内であっても適宜見直しを行います。

５　これまでの成果と課題

(1)成果

① 活動基盤
- 産学官民のつながりをもたらすプラットフォームとして、北九州 ESD 協議会（2006 年）、北九州まなびと ESD ステーション（2013 年）が誕生しました。

② 普及・啓発
- 各団体を中心とした継続的な啓発活動により、ESD の種まきができました。
- ESD コーディネーターの育成により、地域で活動する団体が誕生しました。
- 北九州市で、基本構想・基本計画をはじめ、各種計画に位置づけられています。
- 環境局環境学習課内に ESD 推進係が設置されました。
- すでに ESD につながる活動が地域等で多く行われていることがわかりました。

③ESD の視点をふまえた教育活動
- 小・中・高校、大学などの教育現場で、ESD が意識されるようになりました。

④国際分野等
- 国内外の RCE 等との交流・連携や、情報発信を行うことができました。

①活動基盤

北九州のESD活動は、北九州ESD協議会を核として、産学官民による活動団体のネットワークが構築され、協働の取組みが推進されています。また、設立時の2006年に44団体だった協議会加盟団体数は、2014年には加盟団体75団体・個人会員45名にまで広がりました。活動面では、地域ネット、調査・研究、広報、ユースの４つのプロジェクトに分かれて取組みを推進しました。また、定期的にその成果を持ち寄り、情報交換や発信、ESDマインドの習得等を通じ活動を深ぼりしました。また、全体での研修（ESDセミナー、シンポジウム、ワークショップ等）や国際交流を通して、協議会としてのスキルアップを進めてきました。

また、次世代の実践活動拠点である「北九州まなびとESDステーション」が開設され、協議会とともに、産学官民のつながりをもたらすプラットフォームとして重要な役割を担っています。

②普及・啓発

あらゆる社会活動にESDの視点が不可欠であることの啓発を継続的に積み重ねることによりESDの種まきを行いました。

- 協議会の会員である団体・個人が、地域等で出前講演やESD講座などを開催し、「持続可能性」「ESD」という考え方の重要性について、理解促進・普及に取り組みました。その結果、各地域で、自主的なESD活動などの取組みも見られるようになりました。

・普及の鍵となるESDコーディネーターを育成することにより、各区の市民センター等を拠点としたESD実行委員会が自主的に結成され、年間計画を立て学習や実践活動に取組むようになりました。

・「ESDに関するユネスコ世界会議」のプレイベントとして、2013年に北九州市でアジア太平洋地域のRCEが集結する「アジア太平洋RCE地域会議」をRCE北九州として成功させ、また、愛知県・名古屋市及び岡山市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」に多くの協議会メンバー等が参加し、RCE北九州の取組み等を発信することができました。

・北九州市では、ESDを市の基本構想をはじめ、環境基本計画、教育プラン、生涯学習推進計画、男女共同参画基本計画など重要な多分野の計画に位置づけて取組まれています。また、2012年度には北九州市環境局環境学習課内に「ESD推進係」が設置されました。

・市内10大学が連携して、小倉都心部に「北九州まなびとESDステーション」が開設され、学生をはじめ、一般市民もESDをテーマに気軽に集え、学べる場ができました。そこでは、地域や企業等と協働で、環境、福祉、国際理解、人権など広範な分野で数多くの実践プロジェクトに取組まれているほか、講座、セミナー、イベントなどが行われ、小倉まちなかの活性化、シビックプライドの醸成などにもつながっています。

・市民、学校、企業などあらゆる主体において、それとは認識されていなくともESD的な取組みがすでに多く行われており、既存の活動内容がESDにつながるものであるということがわかりました。また、その活動にESDの視点をプラスすること（＋ESD）の必要性が認識されました。

③ESDの視点をふまえた教育活動

グローバル化が進展する現代社会の中で、持続可能な社会を構築していくためには、「総合的に物事を考え、自ら行動していく人財育成」が重要であることから、教育現場において、ESDが意識されるようになりました。

・北九州市立小・中学校では、ESDの視点をふまえた取組みを推進する拠点校として、ユネスコスクールの加盟を推進しています。

・環境未来都市として北九州市の独自性を活かし、小中学校9年間を通じて環境保全や３R活動等に自ら取り組む市民環境力の素地を身に付けた子どもを育成しています。具体的には、全小学４年生が環境体験活動を行う「環境体験科」、子ども環境リーダーの育成を目指す「北九州市環境キャラバン」、特色ある「わが街・わが校の環境作戦」の推進などを行っています。

・高校においても、各校で自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けるためのキャリア学習が進められているほか、北九州まなび

とESDステーションによる授業の一環としてのキャリア学習プログラム「カタリバ」や、2015年度からは高校生自身が創りたい未来について語り合い、自分たちができることを考えて、企画・実践する「マイプロジェクト」などに、専門的なノウハウを持つNPOなどと連携しながら取組まれています。

・市内10大学が連携し、北九州まなびとESDステーションが開設され、実践プロジェクトや講座等を通じて、次世代を担う若い世代の実践的人財育成が進められています。あわせて、北九州のESD活動を若い世代からリードできる人財「まなびとリーダー・マイスター」を育む取組みも行われています。

・北九州市立大学では、環境未来都市・北九州市の資源を活かし、副専攻として環境ESDプログラムを創設し、持続可能な社会づくりを担う人財育成が進められています。

④国内外との交流・連携

RCE北九州として、国内外のRCEを中心とした地域との交流・連携をはじめ、北九州ESDの活動発信を行うことができました。

・RCEネットワークを活用し、特に国内RCEとは密な交流を重ねてきました。さらにESD先進都市である韓国・トンヨンとは、インターンシップなど、双方にとってESDの促進となる仕組みも開始しました。

・2013年にRCE北九州として、北九州市で「アジア太平洋RCE地域会議」を開催し、アジア太平洋地域が一体となって、ESDの重要性をはじめ、あらゆる主体が分野横断的に取組みを進めることや地域社会で協働できる力をつけることの大切さなどについて熱い議論が行われました。また、併催イベントとして、「持続可能なライフスタイルに関する国際シンポジウム」を開催し、ともに国内外から多くの参加を得て、国際的な視点でESDを考える機会となりました。

・九州唯一のRCEとして、2014年に九州全域のESD活動推進団体が参加するゆるやかなネットワーク「九州ESD推進会議」を立ち上げ、「国連ESDの10年締めくくり会合in九州」を開催し、ESDを実践する現場の声を「提言」としてとりまとめて、「ESDに関するユネスコ世界会議」に発信しました。世界会議には、協議会会員や北九州まなびとESDステーションの大学生が多く参加し、世界規模でさらなる取組強化の必要性を共有できました。

⑵ 課題

① ESD 活動の環をさらに広げる必要があります。
② ESD の定義･活動が幅広くわかりにくいため、理解や認知を広げる工夫の必要があります。
③ 教育関係者の ESD 指導能力向上を図ることが必要です。
④ 北九州まなびと ESD ステーションの役割や活動を存続していく必要があります。
⑤ 企業・事業者・行政機関に ESD を理解してもらう必要があります。
⑥ 地域の多様なステークホルダー間のネットワークを構築する必要があります。
⑦ ESD の効果を「見える化」して、点検・見直ししていく必要があります。
⑧ 国内外に活動を発信するグローバル人材を育む必要があります。
⑨ 上記の課題の達成及びさらなる普及に向けて、協議会の体制を整える必要があります

2006年に発足した協議会を中心に、北九州地域で、多くの団体がつながり、取組みの輪が広がりました。しかしながら、持続可能な社会づくりの必要性への理解・浸透はまだ不十分な状況であるため、今後ESDによる意識改革を、多くの市民において進めていくことが重要です。また、ESDの認知度は、全国的にも、北九州市においても低い状況にあります。そのため、今後下記のような観点から、活動や推進体制のあり方を見直していく必要があります。

① ESD活動が、一部の熱心な協議会会員や北九州まなびとESDステーションで活動する学生などに偏っているため、北九州地域全体の包括的な活動に発展させる必要があります。これまでの活動のステップアップを図り、第2ステージに進むため、北九州地域の未来のあるべき姿を共通のコンセプトとして共有し、様々な主体と協働して取組むことが求められます。

② ESDは本来、環境など特定の分野に限らず、持続可能な社会づくりの観点で、自己の変容を促すとともに、多様な課題に分野横断的に取組むものですが、それゆえ具体的に何をして良いかがわかりづらく、理解されにくいという課題があります。よって、皆が理解・共有できるESDの概念の構築を早急に行う必要があります。

③ 学校教育現場においては、ユネスコスクール及び推進指定校を拠点として、ESDが推進されています。また、学習指導要領や国の第２期教育振興基本計画には、ESDの視点が盛り込まれ、これらに基づいた教育を実施することによりESDの考え方に沿った教育を行っています。特に、北九州市では、「環境未来都市・北九州市」の資源を活かして、全ての小・中学校で、環境教育に取組んでおり、持続可能な視点を取り入れた学習が多く行われ、持続可能な社会の構築に取組む態度、能力を育成しています。しかし、学習指導要領等に、ESDという用語が明記されていないこともあり、教育関係者のESDに対する理解をさらに進めていく必要があります。

今後は、これまで各学校が学習指導要領の視点をふまえて行ってきた学習活動を基盤としつつ、平成 27 年度中に文部科学省が作成する「ESD 実践の手引（仮称）」

や先進校の実践事例等を教員研修等に活用していく必要があります。また、指導の重点（教育委員会作成）等に、ESD について明記し、教育関係者への理解啓発を推進する必要があります。

高校においても、各校でのキャリア学習等を通して ESD につながる取組みが行われていますが、さらなる取組推進のため、密な高校間ネットワークを構築し、ESD に関する取組状況や方向性の把握をする必要があります。

④ 北九州まなびとESDステーションは国からの補助金で運営されており、その事業期間が平成28年度末で終了します。しかし、次世代の育成、まちなかの賑わい、シビックプライドの醸成などから必要性は非常に高く、多くの人々から存続を求められており、新たな活動財源の開拓・獲得の必要があります。

⑤ 企業をはじめ、事業者、行政機関への働きかけが弱かったこともあり、ESDの認知が低い状況にあるため、まずはESDが何かを広めることが必要です。

⑥ 地域コミュニティ、学校、企業などの多様なステークホルダーがESDの視点をふまえた取組みなどに協働して取り組んでいくことが求められています。ESDに取組む主体の拡大や質的充実を促進する仕組みづくりを行い、あらゆる世代や多様な主体が参画できるような学び合いの場づくりが必要です。

⑦ ESD活動の客観的な評価やふりかえりなどが不十分であり、ESDの効果が見えにくかったため、今後は評価指標を設定し、点検・見直しの仕組みをつくり、「見える化」する必要があります。

⑧「九州ESD推進会議」やRCEネットワークを活用し、相互に学びの質の向上や拡大につなげるとともに、国内外に向けた活動発信などができるグローバル人財を育む必要があります。

⑨ これまで蓄積してきた取組みをベースに、さらに取組みを活発化させるため、協議会がESD活動を促進・支援することができる体制に発展させる必要があります。

６　重点的に取組む事項

2014年までの成果と課題をふまえ、重点的に取組む事項をステークホルダー別に整理し、取組みます。
また、具体的取組み内容については、各プロジェクト等ごとに検討していきます。

１　普及・啓発・発信（共通事項）

○「ESD とは？」についての明確な説明を、確立・共有し、普及を進めます。
○ 持続可能なまちの将来ビジョンを皆が共有し、同じ目標に向かって取り組みます。
○ ESD の有効性を「見える化」して、まちづくりの施策等につなげます。
○ 多様なメディアを活用し、市民への情報発信と活動の推進を図ります。
○ あらゆる分野・世代の人々がつながり、協働する仕組みづくりを行います。
○ 既存の活動に ESD の視点を加えることで、活動の価値を高めます。
○ 既存の ESD プログラムの整理に加え、新規開発を行い、普及ツールを強化します。
○ 国内外の ESD 関連組織との連携を深め、情報の収集・提供を行います。

２　ステークホルダー別取組み

（１）地域・ネットワークづくり

・地域コミュニティ、学校、企業、NPO などの多様なステークホルダーの連携を促進し、ネットワークを構築します。
・ESD コーディネーターを育成し、地域課題解決の取組みを創出します。

（２）多様な教育の場

・北九州まなびと ESD ステーションと協働で、就学前、小・中学校、高校、大学と切れ目のない ESD 推進の仕組みづくりを行います。
・環境未来都市としての独自性を活かした環境体験活動を中核とした環境教育に引き続き取り組み、シビックプライドの醸成を図ります。
・ユネスコスクール及び推進指定校を拠点として、ESD の視点を取り入れた学校教育を推進します。
・教育関係者の ESD に関する理解啓発を進めるとともに、指導力向上を図ります。
・北九州まなびと ESD ステーションの機能を存続させ、活動の活性化を図ります。
・若い世代に ESD を浸透させるため、発信方法の工夫を行います。

（３）企業

・社会・環境への大きな影響力を持つ企業・事業者への ESD の周知を強化します。

（４）行政機関

・行政機関のあらゆる施策に ESD の視点が盛込まれるよう働きかけます。

３　推進体制・事務局

○ あらゆる主体がつながる協働のコーディネートを行います。
○ 取組みを計画的に行うため、PDCA サイクルの仕組みづくりを行います。
○ 上記の取組みを活発に行うため、協議会・事務局体制を整えます。

1　共通事項（普及・啓発・発信）

多岐の分野にわたるESDの意義、重要性について考え方を共有した上で、「ESDとは？」についての明確な説明・表現のあり方について検討し、確立させ、普及を進めます。

○ 持続可能なまちの姿と地球の未来の共有

・市民団体、地域、教育の場などにおいて、ESDの重要性が共有化され、持続可能なまちづくりに向けた地域課題の解決に向けた取組みや、将来ビジョンを創る参加型の学びの機会が多く行われるよう促進します。

・ESDの有効性と活用事例を、北九州まなびとESDステーション等と検証し、「見える化」することで、まちづくりの施策等につなげます。

・マスコミ、ホームページ、SNS、情報誌をはじめとした多様なメディアを活用した市民への情報発信及び活動促進の取組みを進めます。

○あらゆる分野・世代にESDを

・地域コミュニティ・学校・企業等がつながり、誰でも、切れ目なく、学び合える場づくり・仕組みづくりを行い、あらゆる分野の人がつながり、分野横断的な活動を進めます。

○ 既存の活動のESD化

・より良いまちを目指して既に取組まれている活動、すなわち「ESD的活動」の掘り起こしを行い、その活動にESDの視点をプラス（＋ESD）し、連携・協働を促すとともに、持続可能性を加えることにより、既存の活動の価値を高めます。それにより、ESDの市民への理解、浸透の拡大をはかり、持続可能なまちづくりにつなげていきます。

・優良事例の共有をはじめ、社会的評価を高める表彰制度、助成制度などの充実・創設に取組みます。

○ESD普及プログラムの整理及び開発

協議会加盟団体・個人が実践できるESD普及プログラムを整理するとともに、北九州まなびとESDステーション等と協働で新たにプログラムを開発し、ESD普及ツールとして活用します。また、各プログラムをカタログ・マニュアル化し、地域等でのESD活動に利用しやすい形にまとめます。

○国内外との連携・情報発信

国内及び海外のESD関連組織等との連携を図るとともに、積極的な情報発信を行い、双方の活動活発化につながるよう努めます。また、これを担うグローバル人財の育成を強化します。

2　ステークホルダー別取組み

（1）地域・ネットワークづくり

北九州 ESD が目指す「持続可能なまち」を実現させるためには、地域での取組みが必要不可欠です。そのため、既存のネットワークや地域での取組みを活かしながら、ESD

の視点を持った新たな取組みを生み出すための活動を行います。

○ 地域コミュニティ、学校、企業、NPO などの多様なステークホルダーにおける ESD の視点をふまえた連携の強化

・既に実施されている地域との連携した取組みに、ESD の視点を取込みながら、さらに連携を強化していきます。

○ ESD コーディネーターの育成

・ESD普及の鍵となるコーディネーターを継続して育成します。また、育成した人財による地域等における協働のコーディネートにより、新たな取組みの創出を促進するとともに、既存の学習や活動がESDへとステップアップするよう、活動の拡大及び質的充実化を図ります。

（2）多様な教育の場

グローバル化が著しく進展する現代において、次世代を担う人財育成手法としてESDの役割は重要になっています。また、GAPにおいて「ユース」は、ESDを通じて持続可能なまちづくりのための変革を進める上で、重要なステークホルダーとされています。そのため、多様な教育の場にESDが浸透するよう取組みを推進します。

○ 学校教育等への取込み

・協議会と北九州まなびとESDステーションが協働し、ユネスコスクール及び推進指定校をはじめとした小・中学校・高校・大学等、さらに就学前との連携強化を進め、事例の発信・共有化を図ることで、切れ目のないESD推進の仕組みづくりを推進します。

・ESDの視点が盛り込まれている学習指導要領や国の第２期教育振興基本計画に基づいた教育を実施するとともに、環境未来都市としての独自性を活かした環境体験学習等を推進することにより、シビックプライドの醸成を図ります。

・ユネスコスクール及び推進指定校を拠点として、ESD の視点を取り入れた学校教育を推進します。

・これまで各学校が学習指導要領の視点をふまえて行ってきた学習活動を基盤としつつ、平成27年度中に文部科学省が作成する「ESD実践の手引（仮称）」や先進校の実践事例等を教員研修等に活用し、ESDに関する教育関係者の理解啓発を進めるとともに、指導能力向上を図ります。

○ 北九州まなびとESDステーションの機能の存続

・ESD活動のさらなる拡大につながるよう、北九州まなびとESDステーションを協議会の中に位置づけ、文部科学省からの補助期間終了後も、その機能を存続させることを検討します。

○ 若い世代へ浸透させるための発信方法の工夫

・若い世代の興味を引き、受け入れられやすいよう、表現・デザインなどの発信方法を工夫して取組みを推進します。

（３）企業

企業・事業者による事業活動は、消費者・地域と密接な関係をもつとともに、広く世界ともつながっており、社会や環境への大きな影響力を持っています。あわせて、地域を構成する「企業市民」としての側面も持つ、持続可能なまちづくりにおける重要なステークホルダーです。そのため、社会変化を巻き起こす役割を期待し、企業・事業者に向けた ESD の周知を強化します。

〇企業における普及の拡大

・企業においても、ESDの理解・実践が重要であることの啓発を行います。

・事業活動における環境配慮活動やCSR活動など、持続可能な生産と消費に向けた取組みを推進します。

・優良事例の発信を行うとともに、表彰制度、助成制度などの創設において、企業部門の設置を検討します。

（４）行政機関

北九州市をはじめとする行政機関は、環境、福祉、文化、教育、経済など、まちづくり・社会づくりの大きな役割を担っています。この行政機関が、ESD の視点をもったまちづくりを行うよう、ESD の周知を強化します。

〇行政機関の理解・取組推進

・市をはじめとする行政機関のあらゆる施策にESDの視点が盛り込まれるよう、働きかけます。また、行政職員へのESD研修を導入します。

３　推進体制・事務局

〇活動の拡大

・市民・ＮＰＯ、企業、学校等のあらゆる主体に対し、ESD活動への参画を促し、協働の取組みの拡充を目指します。また、市のネットワークなども活用したコーディネートを行います。

〇 評価指標と点検・見直し

指標及び達成目標の設定と、PDCAサイクルの仕組みづくりを行います。

具体的には、下記７の（２）（３）のとおりとします。

〇 推進体制と事務局体制

上記の重点的取組みを精力的に行える協議会の推進体制のあり方を検討するとともに、その体制を調整・支えることのできる事務局体制を整えます。また、九州唯一のRCEとして、九州地域のESDの拠点となる「九州ESD地域センター（仮称）」となり、国が設置予定の全国的なESDネットワーク機能を担う「ESD活動支援センター」と連携し、九州をはじめとした全国のESDネットワークを活用した運営を行います。

具体的には、下記７の（１）（２）のとおりとします。

７　取組みの推進に向けて

○ 2017 年３月までに協議会の推進体制の見直しを行います。
○ 多様な主体が分野横断的な協働を行えるようコーディネートを行います。
○ 国内外の RCE、九州 ESD ネットワークの連携を深め、お互いに高め合います。
○ 多様なメディアを活用した情報収集・発信を行います。
○ グローバルと地域の視点をふまえ、RCE 北九州のあり方をデザインしていきます。
○ アクションプランの進捗管理を毎年行い、計画的に ESD 活動を進めます。
○ 自立運営を実現するため、活動財源を確保するための手段を検討します。

(1)推進体制と事務局体制

① 協議会は、市民、地域コミュニティ、NPO・NGO、地域団体、学校、大学、研究機関、企業、行政機関、マスコミなど本取組みに賛同する各組織・団体・機関で構成します。

② 協議会には現在、運営組織として、
・プロジェクトごとにESD活動を企画・実施する 「プロジェクト会議」
・協議会全体の運営・活動を検討・実施する 「運営委員会」
・協議会全体の重要事項を決定する 「役員会」
・協議会全体の支援・事務を行う 「事務局」
が設置されています。

今後、本プランをふまえてESDの北九州全域への普及を図るため、また、これからの時代の北九州ESDをデザインするため、2017年3月までに推進体制を整備します。なお、2015年度から協議会の推進体制及び事務局の具体的なあり方の検討に着手しています。

(2)事務局・協議会の役割

北九州地域全体のESDを推進するため、事務局が中心となって以下の役割を担います。なお、事務局だけではなく、協議会全体として担える体制づくりについても検討します。

① 分野横断的な協働のコーディネート 【コーディネーター型事務局】
本アクションプランの推進にあたって、参加団体の増加、さらに地域・学校・企業・行政等の多様な主体の分野横断的な協働に結びつくよう、協議会内のネットワークを活用して、新たな取組みを生み出し、活動を活性化させる役割を担います。
また、RCEネットワークを活用するとともに、これまでのゆるやかな九州内のネットワークを本格化し、「九州ESD地域センター（仮称）」の機能を担うことを目指します。

② 情報収集・発信　【情報局型事務局】

ESDに関する情報を、RCE等の様々なネットワークや、マスコミ・ホームページ・SNS・情報誌をはじめとした多様なメディアを活用して収集するとともに、整理してわかりやすく発信します。また、北九州ESDの取組みを積極的に国内外に発信します。

③ 企画・運営　【デザイン型事務局】

RCEとして、広く国内外に目を向け、グローバルと地域の視点をふまえた「RCE北九州のあり方」を会員とともにデザインしていきます。

④ 学習　【学ぶ事務局】

これまでの成果・課題をふりかえるとともに、他のRCEの運営・取組み等を参考にしながら、よりよい運営につなげます。

⑤ 進行管理（点検・見直し・評価）

本アクションプランの着実な実行を確保するため、重点的な取組みごとに指標及び５年後の達成目標（下記（３））を掲げるとともに、毎年、取組状況の点検・見直しを行うようPDCAの仕組みを導入します。なお、点検・見直し・評価の具体的な仕組みは、今後推進体制のあり方の検討にあわせて、議論し、決定することとします。

⑥ 資金等

本アクションプランを推進するための人財、資金、施設などについては、それぞれの組織が既存の資源を活用することを基本とします。また協議会としての資金等は北九州市からの負担金のみに依存することなく、新たな活動財源の開拓・獲得に努めることとします。

⑶指標及び５年後の達成目標

○ ESD を「見える化」するため、できる限り「数値」での目標を設定します。
○ それぞれのステークホルダーが責任を持って、目標に向かって活動します。

それぞれの目標達成へ向けた重点取組の指標は以下のとおりです。
この目標をもとに、毎年 PDCA を行い、活動の見直し・改善を行います。
なお、ESDの性質上、指標になじまないものもあるため（活動の質、効果など）、数値のみで判断せず、総合的に評価していくこととします。また、今後の推進体制の構築において、プロジェクトチーム等ごとに、別途目標等を設定することとします。

1　普及・啓発・発信（共通事項）

指標	現状 (2014)	中間年 (2017)	最終年 (2019)
北九州市市民意識調査におけるESDの認知度 （参考：内閣府世論調査2014年8月：2.7%）	4.1%	7%	10%
協議会、加盟団体、北九州まなびとESDステーション等が行うESDに普及活動件数及び参加人数	集計中	前年比10%増	前年比10%増
ESDに関する市民センターにおける講座や行事数	毎年度、全市民センターで複数実施し、内容の充実を図ります。		
ESD活動を対象とする表彰制度の創設	未実施	実施	実施
情報発信	広報戦略を策定し、効果的な情報・活動発信を行います。		
協議会等と国内外のESD活動団体（RCE等）との交流数	集計中	2014年比 2件増	2017年比 3件増

2　ステークホルダー別取組み

（1）地域・ネットワークづくり

指標	現状 (2014)	中間年 (2017)	最終年 (2019)
ESDコーディネーター研修の年間実施件数及び受講者数	集計中	これまでの実績及び今後の推進体制の検討結果等をふまえて、2017年3月までに目標を決定する。	
ESDコーディネーター研修受講者による年間活動件数	集計中		
加盟団体等が地域等で独自に行うESD活動・イベント等の実施件数及び参加人数	集計中		

（2）多様な教育の場での取組み（ユース）

（学校教育）

指標	現状 (2014)	中間年 (2017)	最終年 (2019)
ユネスコスクール加盟校数	8校	12校	15校
「ESD実践の手引き(仮称)等を活用した教員等への研修会の実施	未実施	実施	実施

（北九州まなびと ESD ステーション）

指標	現状 (2014)	中間年 (2017)	最終年 (2019)
連携大学における登録活動大学生の人数	614人	プランの内容、活動資金の状況などに基づき、具体的検討を行い、2017年3月までに目標を提出する。	
ステーション利用延べ人数	21,116人/年		
まなびとリーダー・マイスターの育成	40人		

（3）企業

指標	現状 (2014)	中間年 (2017)	最終年 (2019)
協議会における企業を中心としたプロジェクトチームの設置	未設置	設置	設置
ESD活動を対象とする表彰制度の創設及び実施件数　（企業部門の設置）	未実施	実施	実施
企業向けESD研修の実施件数	0件/年	2件/年	4件/年

（4）行政機関

指標	現状 (2014)	中間年 (2017)	最終年 (2019)
行政機関向けESD研修の実施件数	0件/年	1件/年	3件/年

3　推進体制・事務局

指標	現状 (2014)	中間年 (2017)	最終年 (2019)
推進体制の構築	2017年3月までに検討・調整・実施を図る		
事務局体制の構築	2017年3月までに検討・調整・実施を図る		

８　今後の展望

北九州市は、1901年の官営八幡製鐵所の創業以来、日本の四大工業地帯の一つとして国の経済成長に大きく貢献してきました。しかしながら、1960年代から1970年代に半ばにかけての急激な経済発展の過程で、深刻な公害に見舞われました。このような状況の中で最初に声をあげたのは、家族の健康と地域の環境を心配する女性たちでした。そして、この市民運動が市民・企業・大学・行政の協働へと発展し、一体となって公害を克服した誇るべき歴史があります。そしてこれがまさに“北九州ESD”の原点です。

さらに、2004年には産学官民が一体となって、「真の豊かさにあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ」を基本理念とする「環境首都グランドデザイン」を策定し、ESDの目標である「持続可能なまちづくり」として、北九州市が目指す姿と取組みの柱、行動原則を示しました。このような取組みが、OECD（経済協力開発機構）から、北九州市民のこれまでの努力とこれからの可能性が大きく評価されるとともに、「パートナーシップを強化しながら、持続可能な社会づくりに向けて、環境・経済・社会の総合的分野に広く目を向けて取組んでいくことが重要」と、市民の環境の力と連携の重要性が強く指摘されています。

このような流れの中、市民のESDに関する関心は高まり、2006年に北九州ESD協議会の発足、RCEの認定を目指す具体的な動きにつながりました。また、この動きが高等教育にも広がり、2013年には「北九州まなびとESDステーション」が開設されるなど、持続可能なまちづくりを担う次世代の育成が進められています。

“北九州ESD”は、この原点を引き継ぎ、これまで活動を積み重ねてきた人々に敬意を表し、今後も市民主導の取組みを継承するとともに、現代社会に応じた取組みへと進化した北九州方式の活動を目指します。そのためには、これまで丁寧にまいてきた種を発芽させ、深く広く根を張り、美しい花を咲かせるべく、これから本格的に発展させていく必要があります。

ESD活動が北九州全域に広がり、あらゆる世代の全市民によるESD活動の実践が、北九州地域の新しい未来を拓き、より良い未来を築きます。そして、この行動が、まちを変え、日本を変え、世界を変え、そして未来をつくるのです。北九州ESD協議会は、持続可能な社会づくりを行うESDモデルとしてリーダーシップを発揮し、世界の持続可能な社会づくりに貢献していきます。